



30  
25  
20  
15

10

5

113  
769  
3

古今筆畫

△大和

大和國元治二十

芳節

正十五年

張氏

印

らばをゆくにちと國作す。或ハ菟邊連もご伊勢場

坐邊あふ。中心人捺形像たる形にりて商也。案國口

きの様よ一物うすす。但うあめ國の字様を行ひ

皆漢下横行。行きて小切を手後より大切を中切を

も。又曰。僅昌み節かどの中切をも。ア

一天國

文政五年四月

大宝院主

行

方の筋板板目。アキミナシヤリよ地をも。ア

アキミ筋板サモ。湯りたる地をせ。又拂矣。切てて。アキミ

筋つづら。アキミ筋板にて。アキミ筋板の色を乱さず。唐ふ

筋方上品

天産

波

字

自

狩

ウモトアラス。よりく見そり。筋板目アキミ筋板

み拂りとじ細く焼めたとひすけとへらうとるをよ焼  
わくとれの達ととく焼切て焼うるをとくやく  
焼て横の肉と焼つしきせとうらむ地ひうてうらむ  
みちうくへやをもつて地ちくまの心ふきあめ真  
かかはる。紫とよさくわらうおもと腰よゆえよもと  
あらざとわまたぬすよからうが。腰治の仕とひの腰  
ざまゆみのよりくねたさわと腰心と天國因材の内  
つてはもうか。中心株角あらへうとくらうなよ。内襟と  
見えうち。車の腰うてよすわづらわふくとくせ。金と序山の  
いすをくらめとくらむよまくすうだらこす角とすくらむ  
いはやううきとあり

一友光日井守 大齋の鈴 ちかのあつまつ。腰彦と腰脅つゆ  
こゑやうわてつ。小籠と腰。うとと腰と腰。あ  
わせの腰と腰。又細とくみと腰。腰と腰。腰

一安則一条院直寧 永念法 あくへくは天國の腰わらううれよまく  
腰なり。腰脅つゆと腰。あらへく。腰の腰まくとくよ  
みとまわで。とくせやふくとくがりくとくらわのよ  
とくの腰まくとくとくとくとくとくとくとくとく

二宇私二度學 ひくにわせ

行岡記法の元 ちか湯りそくとく。腰彦と腰。腰脅  
地とくらめ。腰よかとく。腰脅とく。小籠めとく。のこをせ  
みとく。腰拂わく。みとく。腰拂うるのわ車よか。  
△南まテの太術。真ひくううせ方抱かど切らうるをす  
隣ゆりうわのとく。をかひ大腰。腰。あくとく。とくと  
みとく。腰拂わく。みとく。腰拂うるのわ車よか。  
△とく。とく。行ひくとく。みとく。腰拂うるのわ車よか。

周

中上

一當元無此物也多し。物首と經く極くゆき。例。劍極切やす。物比之あくも屬る。居立。みのふ縫りととづを細く縫ひて一尺半毎う。縫ひかくす。切そつてまわせ。縫む。縫しはくちぬ。め多々。刀の刃のみと縫ひし。太刀ふみ多々。ゆりうち。又、海うれじを縫ひ。例。物多々。縫と打の希也。笠を綴り換行。自縫あらは。通行もあり。回船がくと縫より。上中下より。きうち。妙書。云。刀ハ少絆。幅と度く。縫う。の刃と縫く縫つ。已す。

一國行 後行 女房 女徳お教え。委ハ系焉リハズ。一則長素元此。虎頭アシカノヘ。姿ミマク。縫ひくひく切。さや。居立。委ミマク。とゆ。縫く。徑小札ミナシ。佛の心よ属る。ゆゑ。詠ヨメテ。足わいの細か。佛の事よ。みかくれ。あくべ。津

わ。虎頭三代同源也。祖父親父を。傳タマハタマハ。芳き。り。と。お。國の事ミタマハタマハ。傳タマハタマハ。大和國。則長ミタマハタマハ。女房。かく。もの方ミタマハタマハ。よどり。行。の。き。り。株ミタマハタマハ。の。ふ

一子年完元此。物の姿ミマク。縫ミタマハタマハ。も。株ミタマハタマハ。坐ミタマハタマハ。あく。み。き。あ。よ。黒ミタマハタマハ。坐ミタマハタマハ。切。と。中。比。の。縫。行。た。り。ん

室ミタマハタマハ。に。改。絶。極。目。の。第。り。び。作。ね。く。ゆ。と。去。酒。多。ゆ。全。是。行。信。う。坐。す。中。の。や。る。事。有。縫。の。序。坐。を。そ。ひ。の。縫。縫。也。但。く。び。と。二。三。寸。接。行。と。中。の。坐。大。も。多。く。も。る。手。多。く。縫。と。お。う。は。祖。父。親。族。の。と。か。や。院。の。字。よ。あ。い。忠。の。縫。縫。株。角。め。と。肉。わ。り。ゆ。あ。い。と。深。く。う。お。も。う。て。丸。株。の。く。か。と。う。見。い。割。入。立。や。う。か。萬。わ。う。術。よ。と。き。う。世。私。す。と。あ。る。

一行傳

重弘とせと相りて。金玉ふ吉うま

力王

康雲

中上  
廉經

宣重 義廣お教整多々。宣重義廣おひれ礼と稱

切也。

一包承

元亮

年鑑ち方めも。勝が反る。行彦く居立

胖卒

毛うらり切とつども。脛室うて極固いふ。ぬゑ

地をあくみやくすく

縫りといふ。かくもく縫も。サのくさく

いを一戻りとすり

ひのくられみと縫はえ多々。わじ。とく

やう拂

をわう。うくとくとく拂のむち。まのあらものよたとれ金

とあらひ

ひけろ。うきに。ばくもひそく拂也。づくしきうとも

さうみも

のうとをせし。拂さびたり。切の角うく拂くも

みちもあゆん。

まくわらぐのくよ縫わう。う。

圓盤

灰わう。とめ大盤と手ねぬよ。力とくゆる。拂色こゆ也

拂もあ

あくの。がくらがじうの。か弱。安者ふか。くら。太

盤の

あく。拂はぬ。手ぬ。刀よどり。ひく。拂とよ

下折

さのとすらう。ばね。他ノ机み。拂半ね。よひだり。初

下折

多めよへり。拂く。うく。

一真名

え舞院 保昌ス即ち刀の姿也。終彦く。高笠

よ雁相同

たまめ。地くつもくあくみふみこくもくもく。高笠

刀をひのめとやきつひ。逆刀ハサウテ。のひめひめ

わうと株のあ。あく。う湯がうつにえの。向株よ湯じ

あうとすやすく。げ他ノ六壁よ。熱同わき。天壁づる。又

わうとすやすく。わうと

一真名

真家ホ拂うつ多々。忠ひく。拂とうつ切

忠の株う角うて。忠の株うとく。忠の株うとく

一國雪

え弘法 太刀ハ高株うとく唐脚。雁相同わづけ

あく。地う座つもく。上あくけり。かみ。ふく。いよ湯をとく

かみ。すく。みの肉うちかえう。刀うどく。ひのく。株のあく。底

く。まくして三角の底。ひく。みとやく。みれ。底の

第。かのひみちく様のあつてうらへ。是け宿のすゝへ。  
がじれしののみひからき天地まづりてのび。切わらひ  
あきらへて。忠柱もくさしきへ薄くさりとひそとあそ  
る方からどうより國の主の才小玉とおろかまおれ  
の時とあづべ。國伝と國あすれ。力と少焉よどぎと底  
をぬて。かじと平肉よにくこままうち。薄いゆく。ままがす  
也。然め見よどくいり。薄の心やくさり。也。別名若翁の太和湯  
内。攝津京福余方よほとぞふより。也。おの身の事あると  
一包氏。大和志津。お嚴益氏。同。とひよりて國傳と云復  
うちじやざと拂う。すみとやくゆき。地をしきる  
て。極うじうじいじうう切うとう。忠柱あく様うう  
或へ様下ひづきをあう

一者光あひよま更刀へ短く。先づは勝わく。也。至多え  
か。忠い持うてたれ。先細は序と様下ニ定めよひうてす

サセ高堂御よひう。ゆう

△

東物。大和。ちのれ。安。室。く。の。ん。か。高。内。傳。ヒ

て。高。中。切。手。中。絆。柱。肩。地。く。そ。の。と。せ。す。わ  
ま。少。味。わ。り。み。ら。ふ。り。や。う。う。て。拂。多。一。私。み。ハ。徳。あ  
わ。の。く。事。業。へ。と。之。を。そ。望。の。る。じ。き。が。此。の。角。座  
み。め。て。ゆ。り。あ。一。と。拂。す。湯。乞。と。焼。り。例。へ。楚。字。へ。七  
ゆ。ふ。う。り。う。と。劍。ハ。ほん。この。ミ。と。う。じ。相。わ。そ。う。ま。る。ふ  
あ。と。ぐ。だ。う。と。こ。あ。し。捨。湯。と。忠。ち。方。ハ。第。四。日。夷。た。の。上  
刀。内。め。り。と。同。費。宣。の。下。よ。拂。と。才。鶴。ハ。様。下。様。伊  
走。壁。門。と。ハ。す。ら。く。や。う。り。ち。う。と。ハ。平。と。輕。株  
の。大。兩。角。と。ア。摩。切。左。と。中。也。紙。相。同。こ。ま。う。也。と。應。立。あ。ま。く。か。な。え。よ。お。あ。く。免。左  
母。肺。立。今。く。燒。割。で。拂。リ。ア。フ。ア。れ。め。と。や。そ。と。之。屋。重。禁

一國行。

五元山

未。か。高。ち。方。の。深。え。す。一。大。兩。極。と。ア。摩。切。左。  
と。中。也。紙。相。同。こ。ま。う。也。と。應。立。あ。ま。く。か。な。え。よ。お。あ。く。免。左  
母。肺。立。今。く。燒。割。で。拂。リ。ア。フ。ア。れ。め。と。や。そ。と。之。屋。重。禁

三すけ。又ふちうらとまを豆とやらせたり。みうちの豆をから  
くわゆる處。みうちわくへやくで見る所也。つらくうら  
佛也。切肉の肉は豆腐よやく。味は湯乞の豆子も豆腐よれぬ  
湯あり。私とおもき通す。お算やうわう。志のひよ肉とあるを  
て考をうらとぞくへうらやうふうを味わくともあく。味候がハ  
二字用行ばん。國行ばん。りもあたれかうやうたれ、細く去  
空すまふで小算葉也。

一國後 番長 東洋方御ちあひの發よ絶叫うら縛り發ト  
筋手のくわうすかねえ。そく彦良又よや豆とのくわうに  
すまくすととをくわうも。六丁と夫がも。重めの毛糸髮すは  
佛多。下の腰の方、袖、うす事やどてゆうり、わくとが。但又  
ぢうよりうえ腰脅。そ地うらとく。上方也よもさきうみてし  
くわうとく化す。株肉横原。國貴元の下よ二まよせ  
ス東國後矢の化。ほよまの字がけておととく。計人をまげ他も  
おれあぬいう。宿もがく。ゆく他。豆腐のありよけくら  
と掌守り底く。腰うつさのまくやく。刀、うくらまく  
うくらうく。わじとてぬや。腰地のう。梵字ふくのうき  
をす割り。上様もうるよて中様とまう。國貴横原。豆の  
鴉よこなす。大はゆねり。ねがくとて核をす。うくらと  
あり。又云二字國後の方。腰地を差す。ゆく。うくらを  
國後國番。國後三代。ゆく。ゆく。年少ゆきり。多くは半道  
丹波のゆく。ゆく。又云大内國後と云。又云東久國後と  
云。代りゆゆりく。他とくとく。うくらの。新よもうて二まよ  
せ。出来やうふく。上半トとく。也

一國光 番長 東洋方御。湯よ後。御ち御。彦良  
切そと中。まわの。小池。腰脅。ゆく。うくら。腰  
豆くわう。就みよとくとく。腰。豆の。うくら。まよてつう

多き。猶もまよあくまくのものにて、親と親より、切々と内  
がじゆきつとあひゆふやくみるもくたてと、肉と被り  
むらうじよせんり。被らるをば。祖文親は、肉と口に、  
妻の妻と力へあらうけうちやうふらやうふら妻の妻  
へ焼拂ふとあじよれし。又のとてをとし  
脇ふあひづきんすうちやうふらうじより。妻の妻の妻  
やうづけうて、娘あこきふらり。妻の妻の妻の妻  
とひくゆうとくやう下から拂うねのとあひてかま  
ふみとくり。乱みか刀。被ふれと金地とみとつじさ  
せば他處みへうるを。妻の妻の妻の妻の妻の妻の妻  
づりを妻の妻の妻の妻の妻の妻の妻の妻の妻の妻  
一國次  
多益 漢食茶と号と。易流。もく居く切のびち  
居り。亂みとやうそく。居る妻の妻の妻の妻の妻の妻の妻  
居り。大略とく極わう。面づり画引よはう。被板目作  
津と貰てとやうそく。拂わらく。是とよとく。拂  
わるのれうそく。六株よ湯毛多く。地とひらめく。拂  
わう。ちうのとく。やう。書り。刀の作と。とよとく。拂  
け。三株の妻と。女よつり。亂みとよとく。拂多く。妻  
刀ハ拂とく。やう。拂をく。くやく。う。う。う。  
國後ちうのとく。拂紙みえり。拂い。う。拂。剃枕字  
とく。化作。ちう。拂。太。正。

一國長  
多益 女よとく。有姿。拂とく。拂とよとく。化  
也。また。荷店中。拂ふとく。あく。れら。あけ。う。の。而  
妻女とく。乱みとく。やくの。きれの。とやく。あく。女房ハ  
聞きのう。妻女とく。ひ。拂い。多く。みる。とく。よとく

下上  
三わう他<sup>ハ</sup>忠<sup>トシ</sup>模<sup>モ</sup>が<sup>ガ</sup>さうり<sup>リ</sup>株<sup>ヤウ</sup>肉<sup>ヤウ</sup>來<sup>カム</sup>國<sup>クニ</sup>長<sup>ナガ</sup>く<sup>ク</sup>行<sup>フ</sup>

卷之三

とて見詫ひおもひのまゝに。中後園より大和みすね源  
の庵（あん）かどやまきは北（きた）をあへ。之代はうらの山手也。之が  
御殿（ごてん）はくわら。二代目は圓けむ。三代目は圓けむ。忠ひおまくは桂圓  
精進院（じうじんいん）。此の事は圓空院の御事。右の一起茶馬より  
一宣利（せんり） 文承化 緩小後深の御事。安國行ゆめら。又多く  
経ひう。唐年。般若月地（はんじやくづち）。歸心ゆく爐主ゆうすうを  
かる御事也。やうかくそら切。中陽年。元年。内（うち）に  
の末（すゑ）の火燒。はえ後（ご）の御國行。桂圓（けいえん）。り。桂（けい）。湯氣也。  
燒。おわら國。地。御事也。まつまつと。もじらる地。齊  
怡。高西。と。國行。又。と。云。一後。も。同。因。代。ゆつ。計。也。  
室利。ほ。の。安。ハ。國。行。高。も。と。そ。く。下。り。是。極。意。の。事。  
桂圓。よ。ま。や。ど。り。御。事。ま。た。う。る。御。事。般。と。べ。

## 一家近

（いっかきん） 家。高。れ。あ。う。れ。り。切。う。す。や。也。唐。中。般。若。  
ア。ム。ぬ。や。う。宿。う。あ。く。ま。篠。う。そ。い。う。高。れ。行。少。序。大。而。  
極。よ。く。御。事。又。よ。且。と。わ。き。こ。り。御。事。と。ひ。き。み。る。御。  
事。と。高。み。お。と。唐。年。み。よ。や。く。あ。り。き。と。や。す。ま。く。と。家。之。御。  
御。お。や。う。ニ。事。事。お。そ。た。一。字。よ。事。事。又。公。掌。出。走。行。國。私。住。等。す  
わ。う。それ。忠。の。事。行。と。拂。よ。至。と。出。す。す。わ。う。

## 一家家

（いっかきや） 家。高。の。姿。う。と。向。般。若。同。て。と。高。や  
急。地。う。と。高。の。姿。う。と。の。き。御。事。又。ト。空。と。と。も。高。  
也。拂。多。一。唐。中。高。の。姿。高。き。也。家。近。う。と。し。御。と。ひ。つ。太。ば。仰  
も。も。高。高。か。一。渡。し。度。御。事。事。と。と。く。仰。り。御。が。高。き。  
也。拂。う。よ。か。耶。

一家園 （いっかきえん） 家。高。の。姿。う。と。向。般。若。同。て。と。高。や  
急。地。う。と。高。の。姿。う。と。の。き。御。事。又。ト。空。と。と。も。高。  
也。拂。多。一。唐。中。高。の。姿。高。き。也。家。近。う。と。し。御。と。ひ。つ。太。ば。仰  
も。も。高。高。か。一。渡。し。度。御。事。事。と。と。く。仰。り。御。が。高。き。  
也。拂。う。よ。か。耶。

一國承因五をもつ三男  
兼長き才 ちゑはあ後のはまにけり。但せちへ皆  
うち被かぶ桜月さくらづきゆひゆゑあらわるる也。絆くわいをたうじて色わら  
とすれど、鷹鷹たかたかの音おとをうけて切きんばしまわる。秋あきみどりくみと夜よ  
のめぐれてよし。け都つゝよ大和やまとす。國くにはおろす竹たけあづはけ。枝えだは  
卒そつ暮ぐれ闇くろ水みずの音おとはうづけり。國くにはふる森もり萬よ木きせむれ  
一光長一光平ひら義よし芳よしは湯ゆの彦ひこはぢめある。又また  
之のともよぶ。がりし鳥とりうろ經き。金かな梵ぼん字じのたぐの源みな婆ば  
教きょうをうて玄げん天てんをす。のまきとりぬれとのひ。ひうれよ今いま

貴君を爲の吉也あ

一言家達磨。ちのゆめ。多種。かく。塔。の。白。は。多。う。ま。し。山。家。  
りそ。の。こ。き。か。機。て。佛。め。り。が。り。し。那。ひ。の。あ。う。う。う。み。ま。東。株。  
か。か。ま。ま。行。又。い。機。通。か。よ。ひ。ひ。私。二。字。正。の。字。鑑。也。  
一。長。光。空。ち。か。れ。ち。の。安。ら。ぐ。ざ。す。た。終。ひ。く。ゆ。と。け。ま。  
や。う。ふ。乱。立。津。亂。と。よ。佛。是。あ。へ。と。佛。め。り。唐。屏。し。寂。界。

△  
△  
△

△雲因の如き。ちうの筋細く。眼指しまひ。而て  
体の墨くらべる。地をまく。みを白して拂多一。  
度とやく。重み。中幅。うねり。二重みと。大筋。  
、拿みのり。サムヒ切の後流。梵文をもじりふた  
口細い。極めて多く。あまきひの手すきをやむ。  
刀はさげ身で。之種の。株角。あまきひ角。而て商五。  
研。横生。平ひね。或へそとぞ。取先。あまきひ。表背。裏  
の。空。落。下せし。刀。折。西日。表。表。下。あまきひ。研。唐  
一國友おとこ  
、深く。被。背。肩。あまきひ。表。表。あまきひ。ひよ。まく。表

あらぬ事、反歎より之猶リテ。序とがへども、みち高く  
そよまうよまえ時、くわたり拂度也。拂了湯をと拂之旁  
のわざわざうとりとみぢりとゆのけ。二三まみえ。刀ひふ  
きふやえ。やりじうてしをうつみどり。あめ常あて。づふ  
素涼。志株肉うそやうう。彼のす藤林國友とす。文書  
と打圖の字一移よみ。國友又、国上等す。あめ  
**一則國**  
唐仁比  
左右の見 あめのあわく。文圖。船板月丸刀と云。いぐれ  
船う魚やう。店席。切先もほす。あく。地うらう。走き  
足。御車みと様。かきあとどやく。大歎。ああみよよとあせ  
て拂。拂。あ。みちまちふにしみとよす。ありあ  
の根わよ。あもじうす。幅あり。あ。梵字とみて切さう  
割。とまらぬやうなり。刀。ひじとやきつしき。うらと  
角たす。中ふ。身筋力とく。下。船めぬみと。述ふ  
もく。國友よ。國。國友よ。

卷之三

天祐比  
賓之來射

村  
ち

卷之三

卷之三

卷之三

三

卷之三

19

卷之三

名

2

三

三

一國者天祐也  
五氣乘射

左房は御り多き事也。多く考へる所也。而も  
彼相向ひて角立てて居る所也。よき事也。  
ありえどかくも其の事也。御事もとや。仕事事も  
中直みわくは能あらざるのみ。國友の事事あり。松  
哥也。更に其の處をよましくあらざる。またの如き。大同の事事  
より燒かう。ゆくとよろひに到り。お色つめ。向ふ拂を多く  
る方れ細事事も。うつむかし。うつむかし。而も。海と山。極極也。又  
は。根。考。多。日。夷。下。考。東。ノ。國。者。い。根。よ。考。有  
一國左房也  
左房は。考。多。日。夷。下。考。東。ノ。國。者。い。根。よ。考。有  
て。ある。角。や。之。此。も。ち。く。は。無。や。り。中。多。事。と。燒。大。れ。ま。と。燒。  
朝。の。わ。う。見。と。み。角。立。て。居。る。所。也。よ。き。事。也。  
事。事。も。う。ち。も。う。れ。な。れ。と。燒。大。れ。ま。と。燒。  
也。事。事。も。う。ち。も。う。れ。な。れ。と。燒。大。れ。ま。と。燒。  
燒。大。れ。ま。と。燒。

望すれどわう地音もくらみのびじゆうりくぐるまきりゆく  
まづのとよもあくべしをひづきをくぐりゆく

中取

一國安 同比五郎 ちあたの夷やくもくもくゆる。切そつどまく

高をはせ。船板の縫をくつろぎ。地をうらかくもく。細妻みと縫をく

青めふ壁くがくとて。よし。力のせうまのらもあつ内。力の森  
整て。立角の佛のみ。以とまほが國安は。立角妻元のよなす  
一國清 天祐 ちあたの夷の國安は。仰て。船板地をうら。細  
妻妻と縫地をくつまうんもく。多者よはり。夷と力のせうまと  
やさうしき。力の森まへ捺彦。けくまき。以と國妻元のよ

おのこへけてお

一有國

恩

安部

夷の夷細くもく。おもとせう。國妻妻

あり。船日さねだりおひと。船板地をまく。縫妻みと縫地をく。地  
小をまく。地をうら。細妻みと縫地をく。あまう。

後模下 一國はあく

一國光

弘安

夷の夷細くもく。おもとせう。國妻妻

やく。船日さねだりおひと。船板地をく。よまう。細妻みと縫地をく。よ

うじ。三拂わう。縫妻みと縫地をく。おわせ。下ら。あまう。

おもとせう。國妻妻

一有國

恩

安部

夷の夷細くもく。おもとせう。國妻妻

やく。船日さねだりおひと。船板地をく。よまう。細妻みと縫地をく。よ

うじ。三拂わう。縫妻みと縫地をく。おわせ。下ら。あまう。

おもとせう。國妻妻

一有國

恩

安部

夷の夷細くもく。おもとせう。國妻妻

やく。船日さねだりおひと。船板地をく。よまう。細妻みと縫地をく。よ

うじ。三拂わう。縫妻みと縫地をく。おわせ。下ら。あまう。

おもとせう。國妻妻

一有國

恩

安部

夷の夷細くもく。おもとせう。國妻妻

やく。船日さねだりおひと。船板地をく。よまう。細妻みと縫地をく。よ

うじ。三拂わう。縫妻みと縫地をく。おわせ。下ら。あまう。

おもとせう。國妻妻

や。おもやあらあふもやあらうとしゆうてゆうをく。縦くも  
すくもくやこりてうわせじのなりとそのまゝあめにゆく  
よきのよきよや。經くやくうそな。わじしふちとさう。  
やうふやく縫て志のちたす法を。但海老縫はすまつ。

## 一國怨

西源山

南朝の正月

あはせ姿め。御身あく。切うづわ。

あはせ姿め。腰立あく。腰背あて。半はうわつせらむ  
たとえ人あちあがへ。猶かと云うて有れみ。縫くまつら  
けと廻く。けよ多。脇のみまどさき。すけとく。まづく。  
玉の身と袖くやさう。袖くすり。縫くまつら。縫くまつら。  
地ぐりと縫くまつら。とあう。縫くまつら。とあう。  
じよみくわふね。虹くまつら。まつら。今うの  
縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。  
三すくまつら。とやさうり。みをくわく。やえわく。刀  
しのまつらと縫くまつら。とあう。ゆとゆく。佛とく。小腰  
大腰。縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。縫  
くまつら。縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。縫くまつら。  
よ國縫とくうか力とく。肉佐國縫とく。國縫はあちの裁  
系園よく。くも穿わく。うも穿わく。

## 一頼實

家則おもしれ書

まく吉と。志榜け。株肉を。年と。御考の年。昭わう。縫く  
ひく。ゆゑく。縫く。ゆゑく。縫く。ゆゑく。縫く。年と。御考の年。  
御考の年と。のう。縫く。ゆゑく。縫く。ゆゑく。縫く。年と。御考の年。  
△頼食の太種。うの。お腹うそ。切く。びら縫く。  
縫く。二種。わう。球う。あふ。縫く。縫く。縫く。縫く。縫く。縫く。縫く。  
て。拂わし。ゆゑ。礼ます。もく。がじ。よ。大腰。縫く。縫く。縫く。縫く。  
まう。梵字。角あて。たゞ。左。割ふ。あけを。坐す  
ひや。さう。そ。あ。割り。と。二。竹。つ。の。た。の。脚。極  
こあ。さ。本。ま。う。の。が。さ。だ。是。そ。く。廣。み。と。重。く。と。の  
坐す。ひ。た。の。う。ら。い。は。い。た。切。の。縫。と。く。ま。ひ。





船板目地とまくらんでもあわづ。のぞきみとあく。のぞきみと  
あく。まくら。浦多くふとちあつた。浦とくい。江筋す年と  
はひ寄りとあく船とくい。船と板目地とくい。船と  
船舎下りてよすかすり。うちくる木よねくとより思はん  
也。お外へ下りていはる者能沙をすり毫毛とある事と林也。  
刃角ちあひ。近接下。刃、少しうらみ。近接もくとあひの事  
林の事と年のはじめあよむうすをあせ。また林の事と  
かく。正宗貞宗の船と木舟とよろ細わる。同門と  
あくへくねたあくもの事と

一 广光え義光

九郎内節

廣光

船板目地とまくらん。浦多くふとちあつた。浦とくい。江筋す年と  
はひ寄りとあく船とくい。船と板目地とくい。船と  
船舎下りてよすかすり。うちくる木よねくとより思はん  
也。お外へ下りていはる者能沙をすり毫毛とある事と林也。  
刃角ちあひ。近接下。刃、少しうらみ。近接もくとあひの事  
林の事と年のはじめあよむうすをあせ。また林の事と  
かく。正宗貞宗の船と木舟とよろ細わる。同門と  
あくへくねたあくもの事と

一 秋廣えひろ

九郎内節

秋廣

船板目地とまくらん。浦多くふとちあつた。浦とくい。江筋す年と  
はひ寄りとあく船とくい。船と板目地とくい。船と  
船舎下りてよすかすり。うちくる木よねくとより思はん  
也。お外へ下りていはる者能沙をすり毫毛とある事と林也。  
刃角ちあひ。近接下。刃、少しうらみ。近接もくとあひの事  
林の事と年のはじめあよむうすをあせ。また林の事と  
かく。正宗貞宗の船と木舟とよろ細わる。同門と  
あくへくねたあくもの事と

うまむじ秋の事あらへ思ひ

七

一助真雲<sup>雲若庵</sup>ちのめのあら。首て絆を切る。と後龜  
と名づけ。瓶<sup>びん</sup>横<sup>よこ</sup>地<sup>ぢ</sup>をもふをあひでり。かきぬる  
とくえを機<sup>き</sup>。もみと燒<sup>や</sup>りをも。佛<sup>わ</sup>。憲<sup>けん</sup>。思<sup>おも</sup>すども  
彦<sup>ひこ</sup>。新<sup>しん</sup>玉<sup>たま</sup>き又大<sup>おほ</sup>枝<sup>えだ</sup>原<sup>はら</sup>もく松<sup>まつ</sup>れひづげとみづ林<sup>りん</sup>を

△偷<sup>う</sup>物<sup>もの</sup>のち持<sup>もつ</sup>太<sup>おほ</sup>体<sup>たい</sup>もくそを彦<sup>ひこ</sup>もくちのあらうんを  
つづく。拂<sup>は</sup>ふふらう。此<sup>この</sup>是<sup>い</sup>あひゆきうやうあで身<sup>み</sup>地<sup>じ</sup>を  
佛<sup>わ</sup>もく。要<sup>う</sup>希<sup>き</sup>也。切<sup>き</sup>の内<sup>うち</sup>をめりてゆりがみ。りう物<sup>もの</sup>  
す梵<sup>ぼん</sup>字<sup>じ</sup>ハ爾<sup>（アリ）</sup>。とつまう。割<sup>（カスル）</sup>け經<sup>（キテル）</sup>。とをまう  
かくとくは。極<sup>（カタマリ）</sup>。済<sup>（セイ）</sup>。とくまう。とくまう。梅<sup>（メイ）</sup>の先  
物<sup>もの</sup>を身<sup>み</sup>からゆう。つぐもやく。梅<sup>（メイ）</sup>の本<sup>（ハ）</sup>。実<sup>（ミ）</sup>。と志<sup>（シ）</sup>の中  
色<sup>（いろ）</sup>を捲<sup>（まき）</sup>。と。絶<sup>（絶）</sup>よ。家<sup>（いえ）</sup>居<sup>（ゐる）</sup>。身<sup>（み）</sup>のひき。極<sup>（カタマリ）</sup>。く  
經<sup>（キテル）</sup>。あく。身<sup>（み）</sup>をもくと。劍<sup>（ケン）</sup>。す。身<sup>（み）</sup>をもくと。

みたひと深くりう。唐<sup>（カタニ）</sup>裏<sup>（アヒト）</sup>のひちよ。深<sup>（カマツチ）</sup>のくね  
とあつて。彦<sup>（ヒコ）</sup>の立<sup>（たつ）</sup>よ。他<sup>（ほか）</sup>は<sup>（は）</sup>さう。け<sup>（け）</sup>持<sup>（もつ）</sup>ふ<sup>（ふ）</sup>。  
一。刀<sup>（カ）</sup>三<sup>（ミ）</sup>種<sup>（スル）</sup>あり。文<sup>（モロコシ）</sup>明<sup>（アラカル）</sup>のはうう。又<sup>（アリ）</sup>と持<sup>（もつ）</sup>て。海  
佛<sup>（ボク）</sup>。移<sup>（シフテル）</sup>。と燒<sup>（ヤク）</sup>り。もうち。かくして。ああ<sup>（アア）</sup>。は  
ぬ。亦<sup>（エ）</sup>。もくとく。のえ。地<sup>（ジ）</sup>よし。くとく。もくわり。公  
忠<sup>（マサニギ）</sup>の形像<sup>（カタヌシ）</sup>。吉<sup>（ヨシ）</sup>翁<sup>（ウムラ）</sup>。よ。摸<sup>（モル）</sup>。かく。忠<sup>（マサニギ）</sup>。劍<sup>（ケン）</sup>  
もく。もく。もく。株<sup>（ハシ）</sup>。又<sup>（アリ）</sup>。小<sup>（コトハ）</sup>忠<sup>（マサニギ）</sup>。のひ。もく。じ。沪<sup>（ハシ）</sup>と  
よ。を。れ。他<sup>（ほか）</sup>。ふ。の。ひ。と。もく。もく。  
一則<sup>（チツ）</sup>宗<sup>（スム）</sup>え。彦<sup>（ヒコ）</sup>。立<sup>（たつ）</sup>。かく。持<sup>（もつ）</sup>。す。や。事<sup>（こと）</sup>  
瓶<sup>（びん）</sup>。横<sup>（よこ）</sup>。地<sup>（ぢ）</sup>。を。も。走<sup>（ハシム）</sup>。地<sup>（ぢ）</sup>。を。走<sup>（ハシム）</sup>。かく。と。よ。よ。ま。わ。り。  
み。テ。か。乱<sup>（ハラス）</sup>。と。燒<sup>（ヤク）</sup>。又<sup>（アリ）</sup>。彦<sup>（ヒコ）</sup>。も。も。く。と。の。の。ひ。ま。持<sup>（もつ）</sup>の  
毛<sup>（け）</sup>。も。く。く。う。ろ。じ。も。あ。り。と。あ。う。よ。う。う。も。み。そ。と。う。じ。え。約<sup>（アコス）</sup>。佛<sup>（ボク）</sup>。も。く。と。く。れ。も。く。ば。地<sup>（ぢ）</sup>。の。ち。方<sup>（カタ）</sup>。御<sup>（メイ）</sup>。作<sup>（スル）</sup>。あ。り。も。

中上

一文字の字をもつてはるが、筆運する事無く、極めてあらわし  
がある。極めてうらうらとやさしくて、ゆみと稀り居く。  
地ちもくえもくらうから、拂ひ去る所多し。則字を  
名乗るが、あると次のむらうたる。私ノ彼といふと、常々表記元  
あるに則字作る。又、そぞう文字とすまきが、ハ因考完  
のうす。今一人則字、私とお詫活せしむ。最もとて是。  
鶴をと申せぬやうに、之へ度もぬと鶴。この鶴月のよ  
とこねの、傍あ物を抱かむ事無くようく鶴。忠ハ義  
くら羽室よゆくら。又、長歌作とお詫かそ。

一安則 建久比弓の落酒、妙く絶也。又、詫賀原

一。地ちうく。層つてと、まう。また、まう。拂かうくと、  
ト乱と稱うるの画軸、妙くまうら。拂うるを、そのばくまき  
み方うり。今一人安則と詫とお詫活を、なあう。行平が  
お詫活を、お詫活を。ちかのあまびひく落酒。詫ひ大い

わく、けり。お詫めと、度みと、機。づくと、拂。地ちもく

一助宗 息 お詫めあくと、度くゆきのじて、度中、お詫め

と、度く。度く。細。姿み二字圓後よゆく、一文字を、お詫りて、以  
事。あるが、又、と、うつほの、きみと、轍。づら玉の、おねぐが、  
くと、度く。紙板、肩と、度く。地ちもく、あらう。おなじ、もうよゆく、サ  
コモコモ、うらうら。勝かと、ゆかと、細く、やさかて、勝みと、度く。拂  
きを、大一文字と云是と。ば、他を、すりあと、と、自、拂る  
こと、と、そり。見と、拂ふと、作、汗上。又、萬地、ひくくら  
一助成 え、度。ちかの、あさく、度く。房中、紙板、よきと  
あらう。紙みと、轍。姿みと、紙板、すりあらう。拂きを、ゆく、みくら  
きを、ゆくと、そり。そりの、紙ハ、如きと。

一助延 (是) ちかの、姿みと、紙板、すりあらう。紙板

月をもとより。ふ乱みど纏てのぬとぬへ極るゝわ。又  
はもあひて拂ひくと。あるまゆで上手也。  
一家若一是。則某事ちの事一は。切そつま  
よ席席。被相向ひ。よのめやう。せうらう。さうわうふ乱  
又と纏ての機も。又色度も。うとうじあで。白拂  
こまやう。劣れあふかう。あまき。と。経うと。お。終  
家若一は。も他亦因字若他たが也。  
一家若一是。方の妻も。うちふ。序中。切そつまよ無  
肩。角。但り。どども。地も。アタヌの。手。みるま  
し。劣則家よ。は。二。一家若一は。と。個人。み。は。わ。と  
用。但。出来。や。并。以。出。お。縮。之。家本。若。家。ハ。移。と  
志。の。ご。づ。う。ら。よ。か。二。家。若。家。ハ。年。う。け。と。お。き。う。も。あ  
り。か。り。

早稻田大学図書館

011888002245